除草剤を用いて竹林の拡大を防ぐ方法

群馬県林業試験場

はじめに

近年、放置竹林が拡大傾向にあり、風や雪で竹が道路に倒れて交通に悪影響が生じたり、田畑に竹が侵入したりと問題化しています。そこで、除草剤を活用した竹林拡大防止方法について紹介します。

除草剤を使用する目的

竹林の皆伐を行っても、翌年には新たなタケが再生する事例が多く見られます。この理由は、地下に張り巡らされた地下茎の節に１個ずつの側芽（芽子)が存在し、発生するためです。

除草剤を地下茎に行き渡らせることで、多くの地下茎を枯死させることができます。地下茎を枯死させることで竹林拡大を防ぐことが除草剤を使用する目的です。

竹林拡大防止方法１　皆伐後の竹の切株にグリホサート系*の農薬を注入する

*農薬名はサンフーロン液剤,ラウンドアップマックスロードなど

本方法は、竹の切株に薬剤を注入する方法です。タケ以外への薬害を抑えることができます。

手順①駆除したい竹林を地際で皆伐し、伐倒竹を竹林外へ寄せる、または竹林外へチップ化する**。

手順②伐倒後、竹切株にドリルまたはポンチ・作棒等で穴を開け、薬剤を5ml～15ml注入し、穴をテープ等で塞ぐ。（伐倒後１ヶ月以内の実施を目処に）

※使用時期は夏または夏～秋。使用時期、使用液量、使用方法等は用いる農薬によって異なるため、農薬のラベルに記載された使用方法に従うこと。

※当場で試験した結果、最低薬量5ml/本(穴塞ぎ省略)において十分な新稈発生の抑制効果が認められました。(対象：マダケ,ラウンドアップマックスロード使用時)

薬剤注入例

ドリル使用（1人作業可）

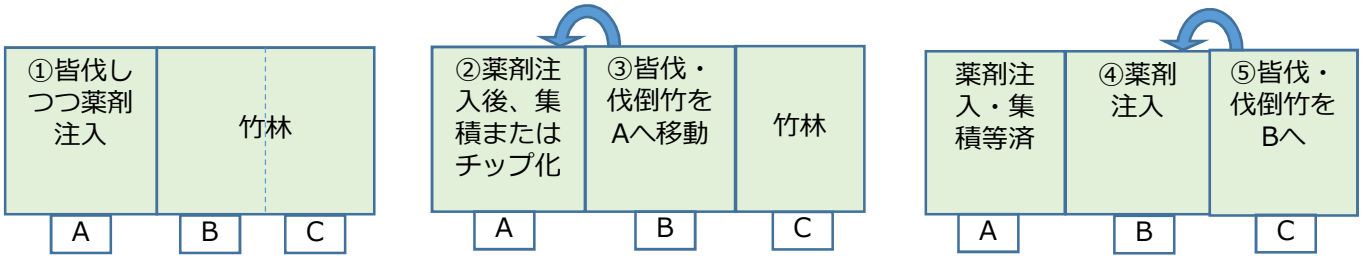
ポンチ使用：道具安価

作棒（鉄棒）使用：道具安価,腰への負担軽減

注意事項：処理竹から15m以内に発生した竹の子を2年間は食用にしないで下さい。
縄囲いや立て札をするなどし、竹の子が採取されないようにしてください。

手順③処理後翌年以降は、再生したタケを刈払う。もしくは、再生した笹状のタケについて、グリホサート系の農薬希釈液を葉面散布する。※希釈倍率は農薬のラベルに従うこと

**伐倒竹を竹林外へ寄せるスペースが少ない場合は、下記の例などを参考に工夫してください。



方法２　竹林内に塩素酸塩粒剤*を全面土壌散布後、皆伐する

*農薬名はクロレートS, デゾレートAZ粒剤など。

薬剤を地下茎に吸収させ、竹を枯死させる除草剤です。

手順①竹林内の散布表面の枝葉・落ち葉等をできるだけ除去する。

手順②竹の生育期**に使用薬剤を用いて全面土壌散布する。

(45～60kg/10a,10a=1,000㎡)

**春季はモウソウチク：4～5月頃、マダケ：5～6月頃、もしくは秋季10～11月頃

※薬剤流出の恐れのある急斜面での使用は避け、水源池、飲料用水等に薬剤が飛散、流入しないように十分注意すること。

※薬剤処理した場所から発生したタケノコは食べないこと。

※薬剤効果の発現には適度の水分が必要。

※その他、使用時期、使用薬量、使用方法等は用いる農薬のラベルに記載された使用方法に従うこと。

農薬散布状況
(本写真は皆伐後散布)

①60kg/10a散布区
散布5ヶ月後

手順③散布後、伐りやすい高さで竹を皆伐する。

※皆伐後の薬剤散布も可能ですが、この場合、伐倒竹を薬剤散布区域外に搬出する必要があります。また、薬剤散布後、竹を皆伐せずに放置した場合、竹が立ち枯れするため、伐倒処理は竹が枯れる前に実施しましょう。

②45kg/10a散布区
散布5ヶ月後

手順④散布翌年以降は、再生したタケを刈払う。もしくは、再生した笹状のタケについて、グリホサート系の農薬希釈液を葉面散布する。(希釈倍率は農薬のラベルに従うこと)

①,②と同じ場所の無処理区

その他:本剤を用いた節間投入による処理方法もあります。

写真提供：住化エンバイロメンタルサイエンス（株） https://www.sumika-env-sci.jp/

農薬を扱う際の注意事項　詳しくは使用する農薬の注意事項を読むこと

- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用 に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等 に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等には流さず、空容器は、環境に影響のないよう適切に処理すること。

Q&A

Q.再生タケの刈払いはどの位の期間行えばよいか。

A.再生タケがほぼ生えてこなくなるまで刈払いをする必要があり、数年かかると考えられます。ただし、方法1または方法2による薬剤処理を行うことで、再生タケの数を減らすことができます。
周囲に竹林が残存する場合は、残存竹から新たに地下茎が侵出する場合があるため、注意が必要です。

Q.再生タケの刈払い方法は。

A.方法1または方法2を行った場合、薬剤処理翌年4月～7月にかけて笹状のタケが再生すると予測されます。発生した場合は、発生後の夏頃に再生タケを手鎌もしくは刈払い機で刈り払ってください。
年1回の刈払いで問題ないと考えられますが、経過を観察して実施してください。

参考　ラウンドアップマックスロードHP　https://www.roundupjp.com/faq/maxload/use/wither/
株式会社エス・ディー・エスバイオテックHP　http://www.sdsbio.co.jp/products/docs/sds11912_201502.pdf